



人を育て 人を活かす

日総工産株式会社

東証プライム市場 コード6569

2022年3月期

決算説明会資料

2022年5月13日開催予定

2022年3月期 実績

- 在籍数は前期末比で1,799名増加
- 在籍数の増加及び請求単価上昇により前期比で増収
- 自動車での半導体、部品不足による稼働減少から前期比で減益
- エンジニアの売上高は目標達成

2023年3月期 連結業績予想

- 半導体、部品不足の影響は一定程度続くと想定
- 人材需要は堅調であり、増収増益を予想

- 1** 2022年3月期 決算概要
- 2** 2022年3月期 活動の概況
- 3** ターゲット別業績について
- 4** 今後の見通し(2023年3月期)
- 5** 株主還元方針
- 6** 補足資料



1

2022年3月期 決算概要

2022年3月期 連結業績ハイライト



(単位：百万円)

ポイント

- 在籍数の増加及び請求単価上昇により増収。
- 自動車関連で、半導体、部品不足の影響が継続、稼働が減少し粗利率が低下。
- 外部人材ニーズは引き続き高い状態を維持。これにより、採用への投資を継続、販管費が増加。
- その他の事業については、減収増益。

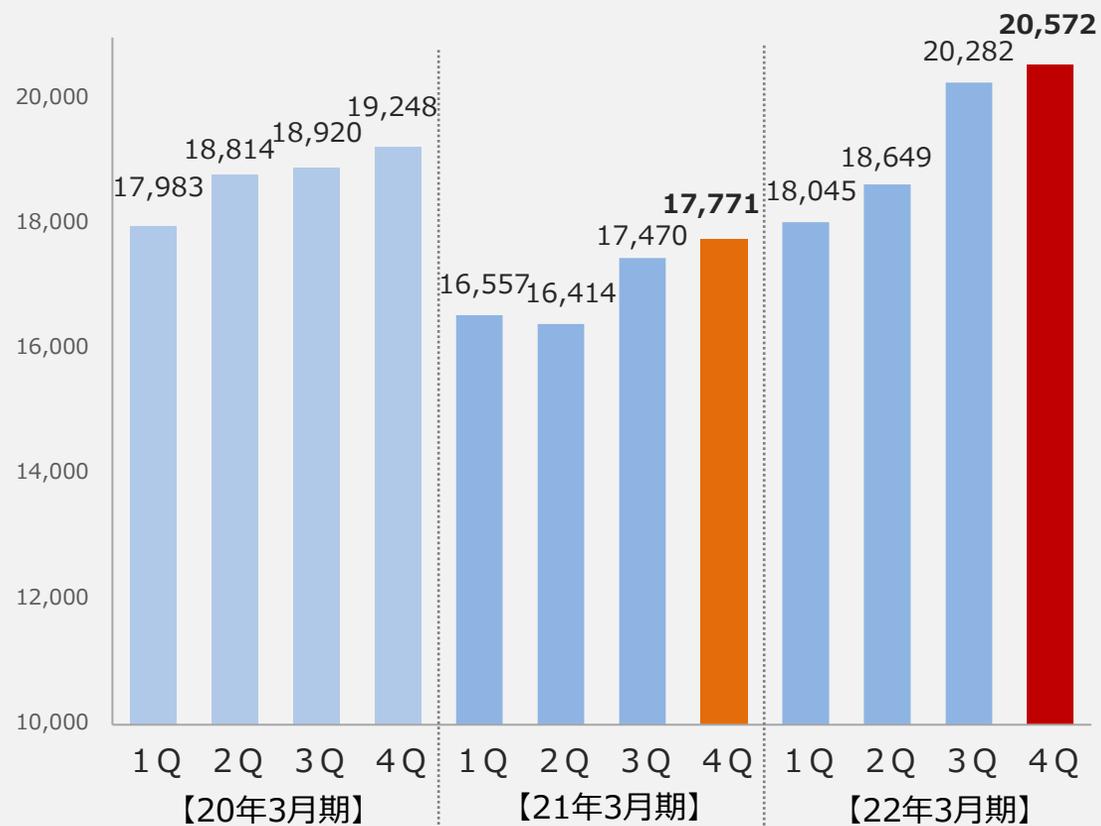
	21年3月期		22年3月期		対前期比	
	実績	百分比	実績	百分比	増減額	増減率
売上高	68,213	100.0%	77,549	100.0%	9,335	13.7%
売上総利益	11,787	17.3%	12,950	16.7%	1,163	9.9%
販管費	9,188	13.5%	10,863	14.0%	1,675	18.2%
営業利益	2,599	3.8%	2,087	2.7%	△ 512	△19.7%
経常利益	2,949	4.3%	2,369	3.1%	△ 580	△19.7%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,592	2.3%	1,696	2.2%	103	6.5%

2022年3月期 四半期単位の連結業績



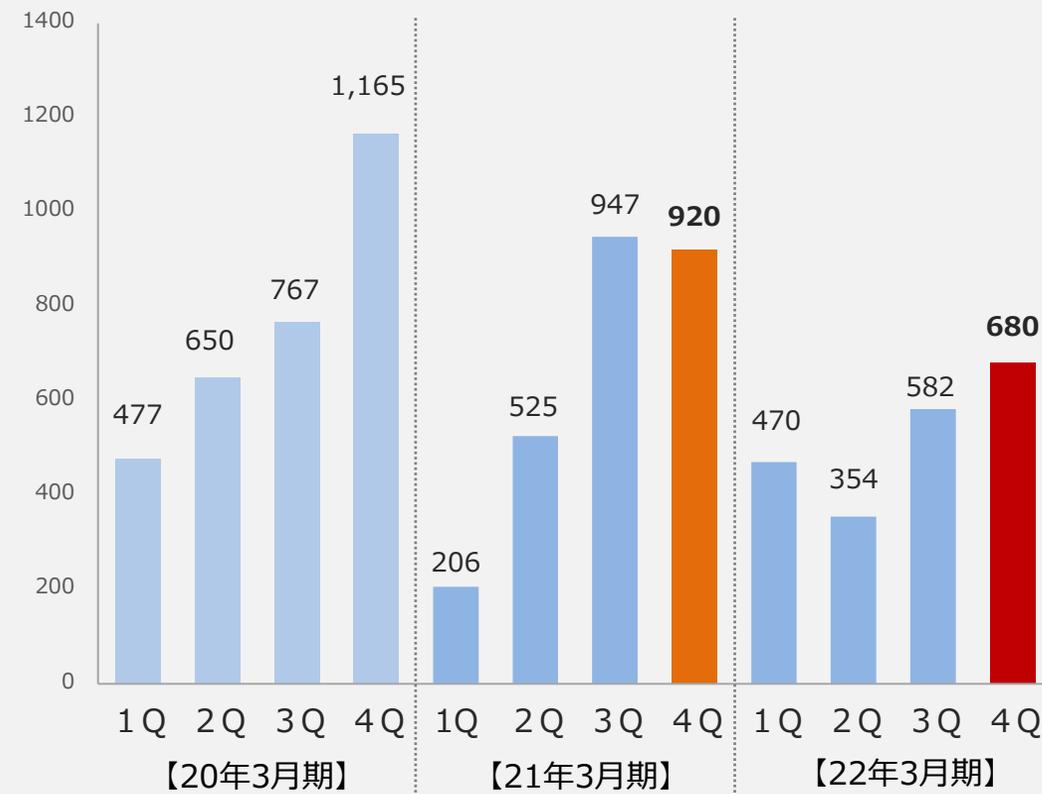
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



2022年3月期 単体業績ハイライト



売上高について

売上高は、在籍数の増加及び請求単価上昇により14.6%増加。

費用・利益面について

- 新型コロナウイルス感染拡大、自動車関連での半導体、部品不足に加え震災等もあり稼働（稼働日数、残業時間、休出時間等）減少の影響が継続、売上高で約27億、営業利益で約13億減少。
- 自動車、電子デバイスを中心に人材ニーズが高く、採用への投資は前期比で増加、販管費も増加。

助成金収入

- 2021年3月期：290百万円
- 2022年3月期：176百万円

(単位：百万円)

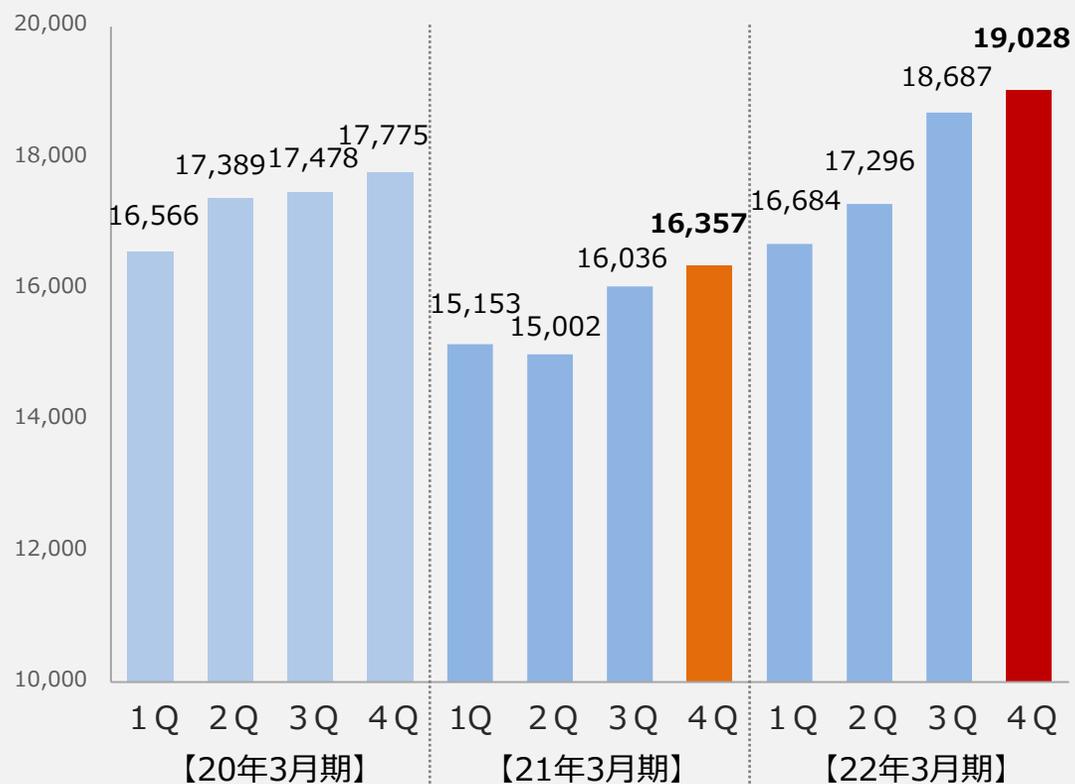
	21年3月期		22年3月期		対前期比	
	実績	百分比	実績	百分比	増減額	増減率
売上高	62,549	100.0%	71,697	100.0%	9,147	14.6%
売上総利益	11,226	17.9%	12,336	17.2%	1,110	9.9%
販管費	8,603	13.8%	10,222	14.3%	1,618	18.8%
営業利益	2,622	4.2%	2,114	2.9%	△ 508	△19.4%
経常利益	2,863	4.6%	2,294	3.2%	△ 569	△19.9%
当期純利益	1,530	2.4%	1,607	2.2%	77	5.1%

2022年3月期 四半期単位の単体業績



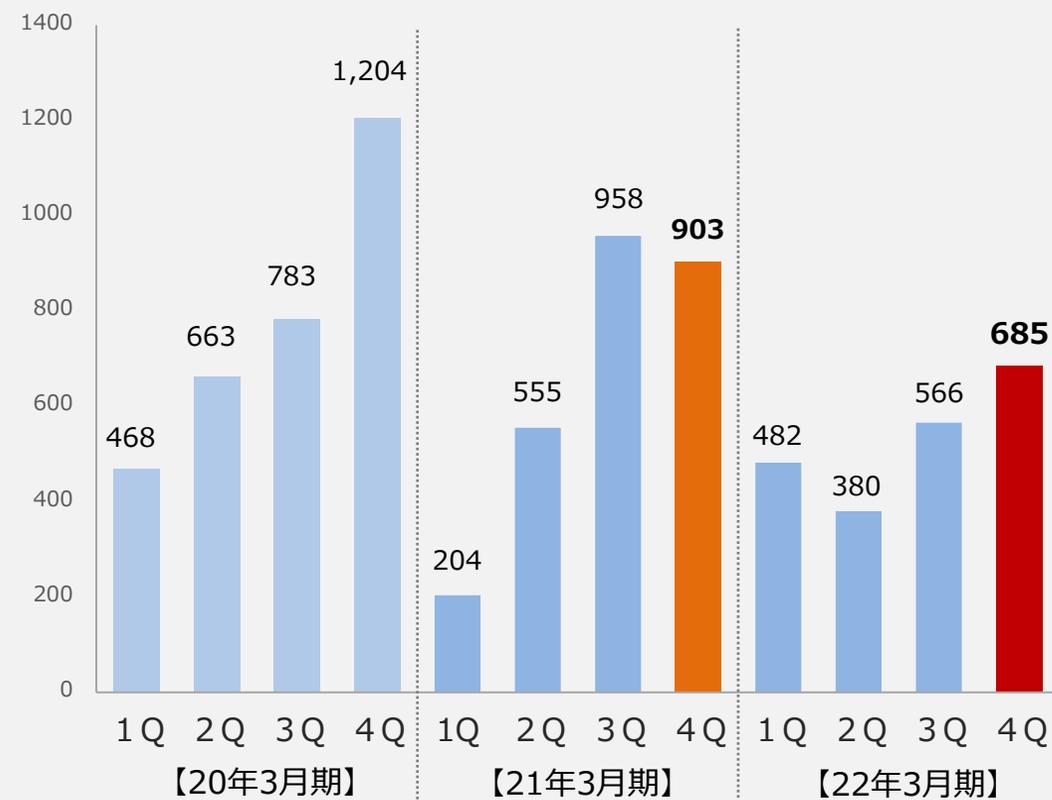
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)





2 2022年3月期 活動の概況

連結業績

売上高	77,549百万円	(前期比 9,335百万円/13.7%)
営業利益	2,087百万円	(前期比 △512百万円/△19.7%)

● 業種別売上高（前期比）

自動車	… +16.7%
電子デバイス	… +19.2%

- ・自動車関連では、前期比で16.7%増加。在籍数増加及び請求単価上昇により売上高は増加、半導体、部品供給不足等の影響は継続。
- ・電子デバイス関連では、前期比で19.2%増加。半導体の需要は引き続き堅調。

● 期末在籍者数

14,945名（前期比+1,799名）

- ・在籍数は、前期末比で1,799名増加。自動車での継続した増員に加え、堅調な電子デバイスも、在籍数が増加。

● 一人当たり売上高/月

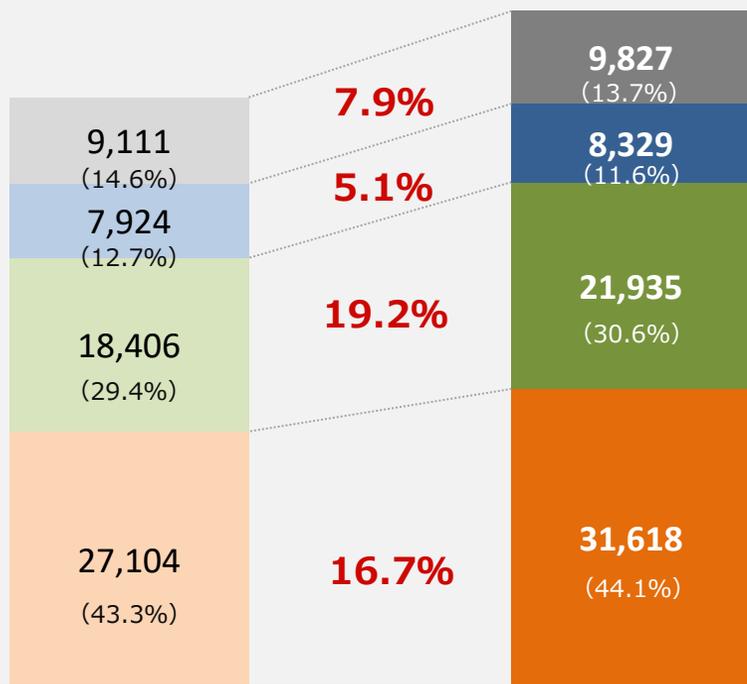
415千円（前期比+19千円）

- ・一人当たりの売上高は、新型コロナウイルス感染拡大、自動車関連で、半導体、部品不足に加え、地震等による稼働（稼働日数、残業時間、休出時間等）減少の影響が継続も、請求単価の上昇もあり前期比で19千円増加。

2022年3月期 業種別売上高（単体）

売上高構成比 （単位：百万円）

■ その他 ■ 精密・電気機械 ■ 電子デバイス ■ 自動車



21年3月期

22年3月期

※（ ）内%は全売上高比、赤字の%は、前期比伸長率

【精密・電気機械】

前期比で5.1%増加も、需要は横ばいで推移。売上高は、20年3月期レベルまでは至らず。

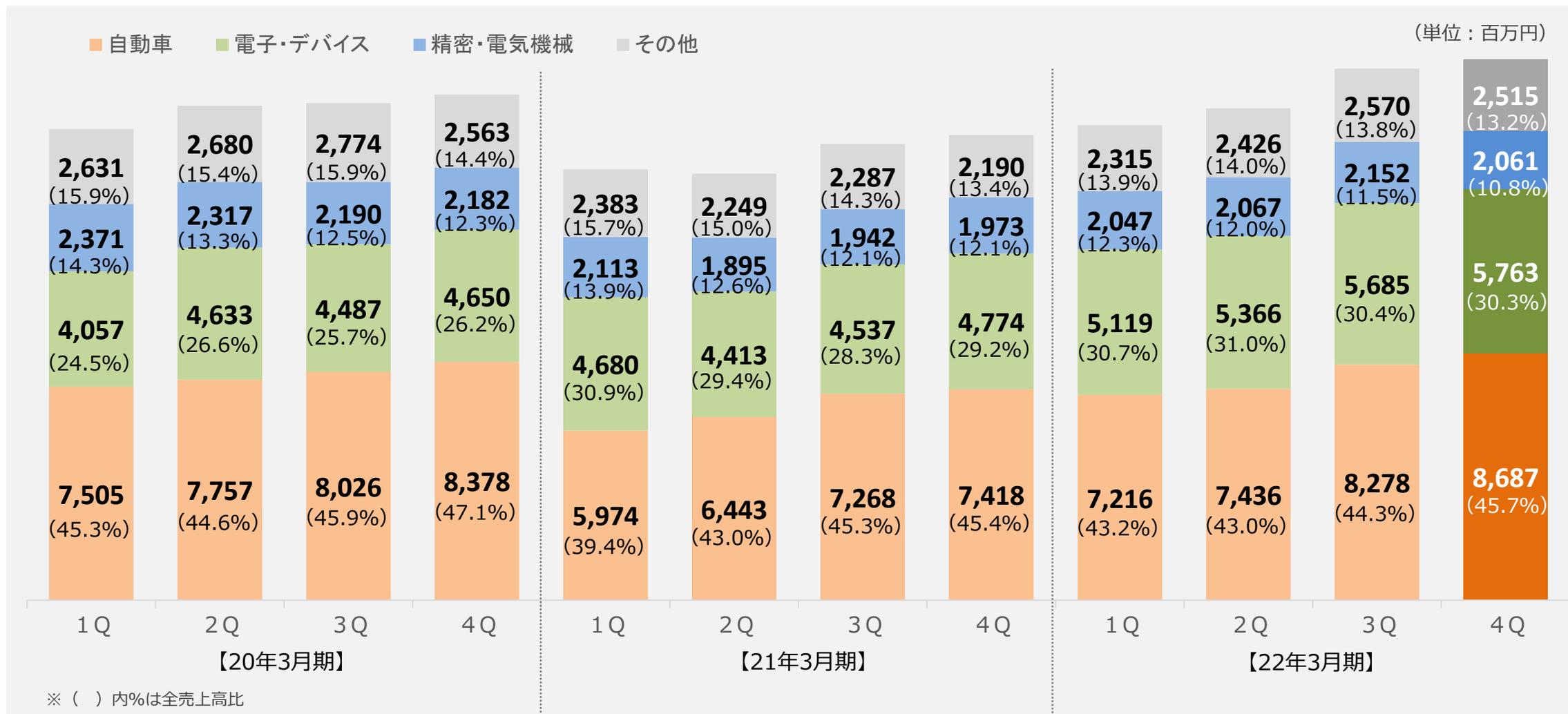
【電子デバイス】

前期比で19.2%増加。旺盛な半導体需要もあり、在籍数が増加、またエンジニアの在籍数増加に伴う請求単価上昇もあり、売上高は上場来、過去最高を更新。

【自動車】

前期比で16.7%増加。新型コロナウイルス感染拡大、ボデーメーカーを中心とした半導体、部品不足に加え、福島県沖地震などの影響から稼働（稼働日数、残業時間、休出時間等）が減少するも、在籍数増加及び請求単価上昇により売上高は増加。

2022年3月期 四半期単位業種別売上高（単体）



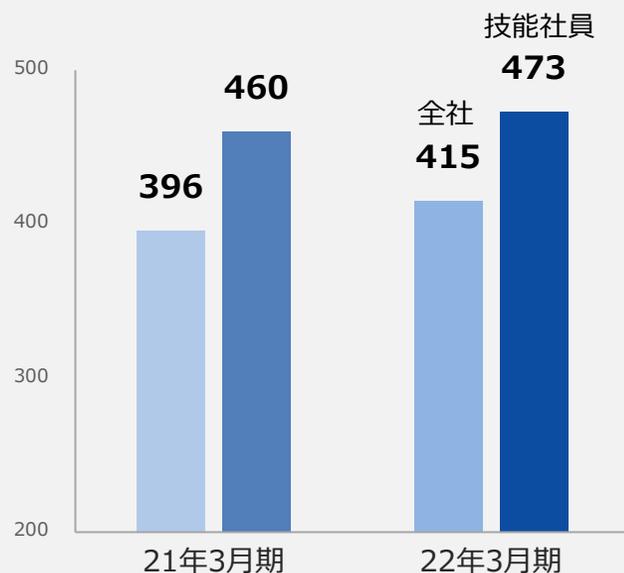
一人当たり売上高（単体）

- 2022年3月期累計
 - <全 社> 一人当たり売上高 415千円（前期比 +19千円）
 - <技能社員> 一人当たり売上高 473千円（前期比 +13千円）
- 全社、技能社員の一人当たりの売上高は、新型コロナウイルス感染拡大、自動車関連での半導体、部品不足の影響に加え、福島県沖地震などによる稼働減少の影響があるも、請求単価の上昇もあり前期比で増加。

一人当たり売上高

（単位：千円）

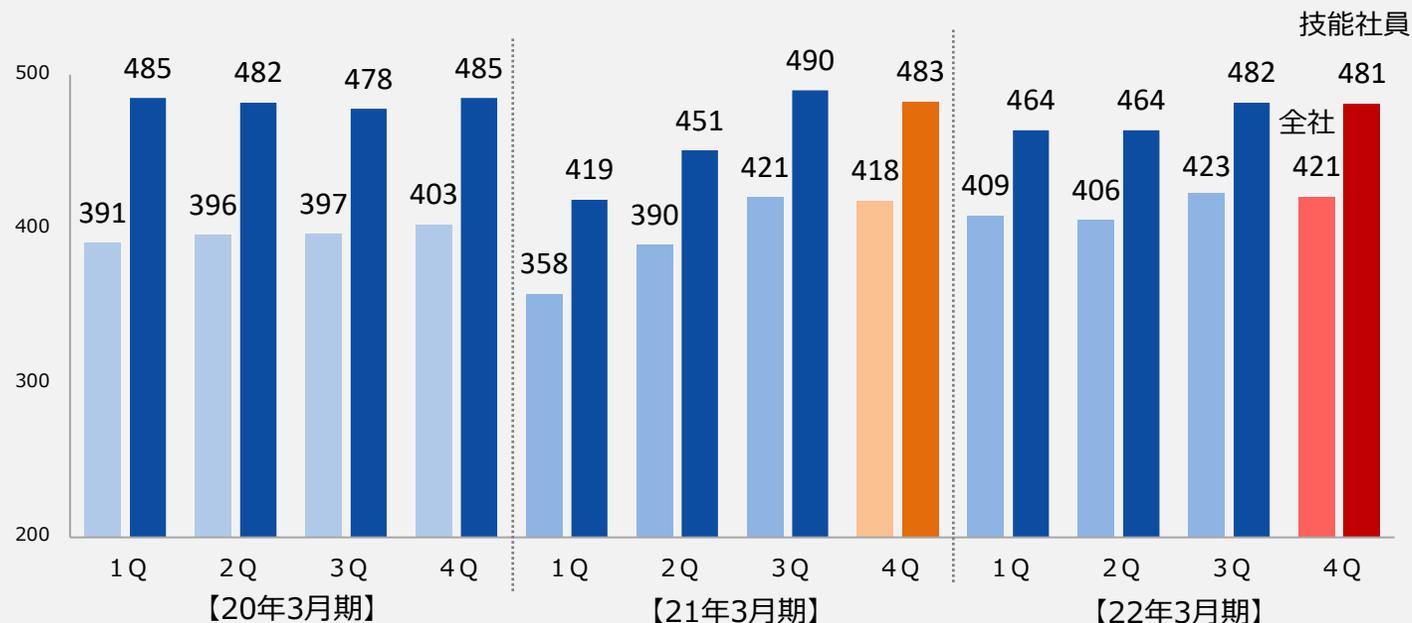
（月平均換算）



一人当たり売上高

（単位：千円）

（四半期単位）



在籍人数（単体）

前期末比

+1,799名（+13.7%）

ポイント①

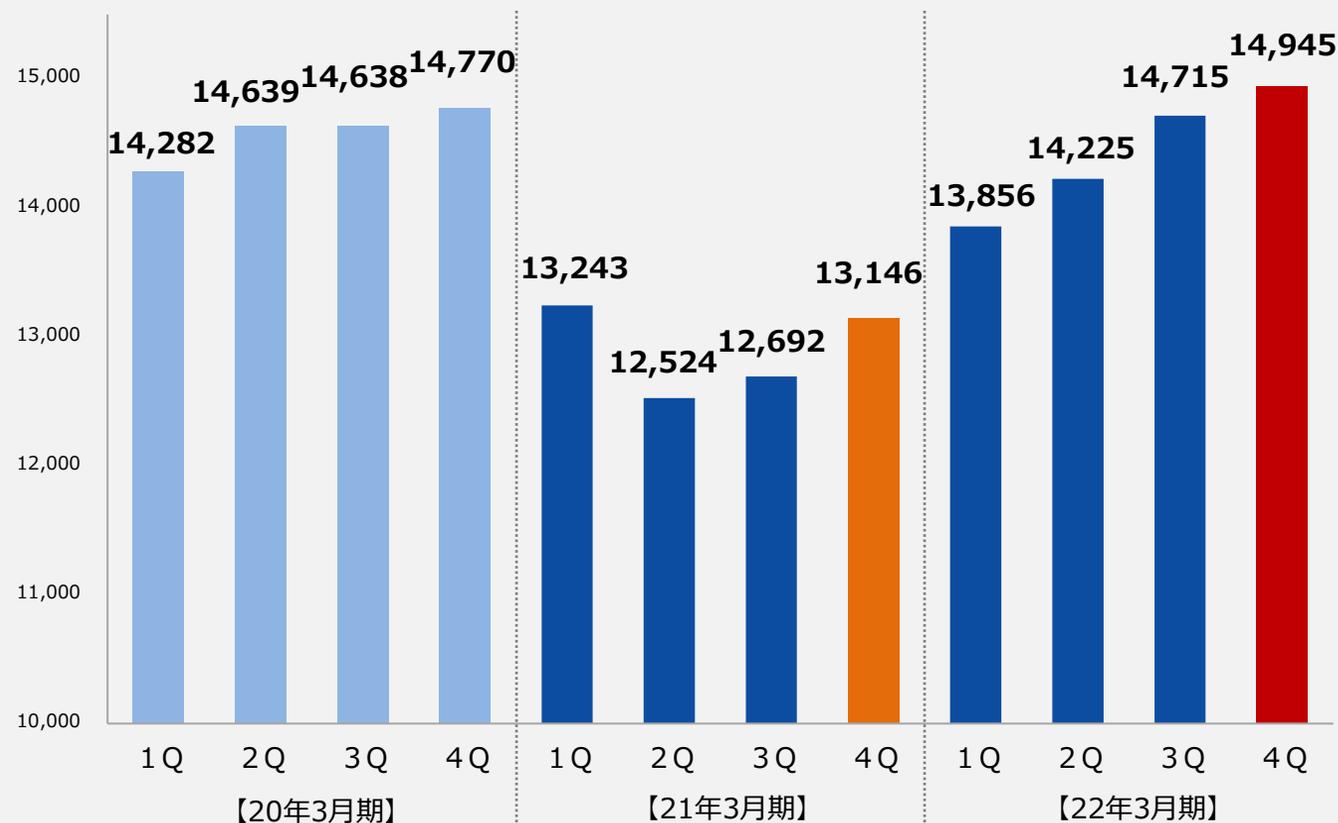
自動車関連での挽回生産、旺盛な半導体需要に伴う増員、また退社抑制もあり自動車、電子デバイスを中心に在籍数は増加。

ポイント②

製造系の人材ニーズは、引き続き高い状態を維持。

期末在籍人数

（単位：名）



技能社員・エンジニア数（単体）

ポイント①

技能社員・エンジニアの総数は3Q比で102名増加。

ポイント②

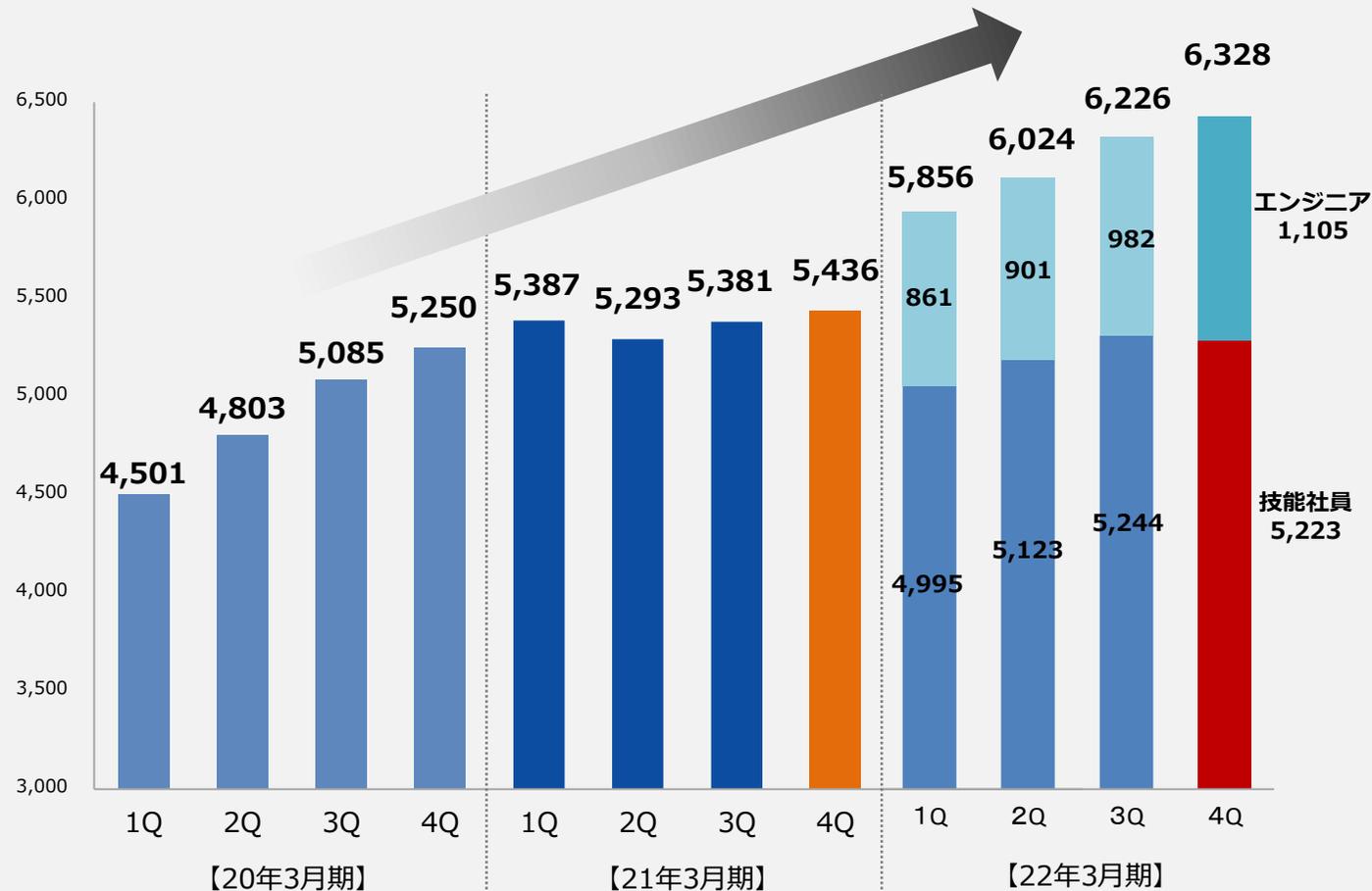
技能社員からエンジニアへのキャリアチェンジを積極的に推進。

ポイント③

エンジニアの設備技術分野のニーズは高く、今後も拡大予定。

技能社員・エンジニア数

(単位：名)



アカウント企業について（単体）

ポイント①

アカウント企業グループの4Q累計の売上高は、前期比で12.4%増加、上場来、過去最高を更新。
4半期単位の4Q売上高も、上場来、過去最高を更新。

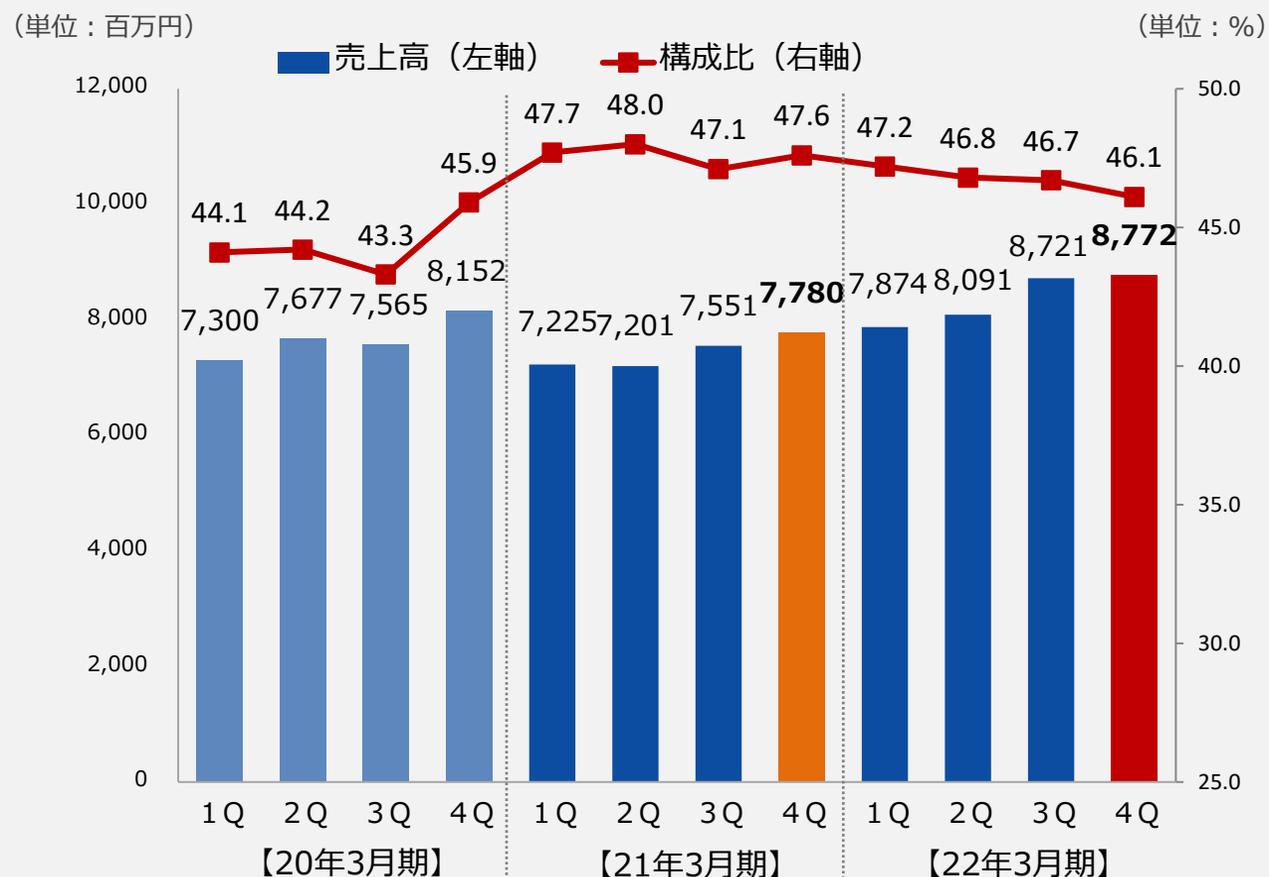
ポイント②

自動車、半導体関連メーカーを中心とした増員に加え、請求単価の上昇もあり、売上高が増加。

ポイント③

アカウント企業の売上高に占める比率は、自動車関連での半導体、部品供給不足に加え、震災等の影響も重なり、減少。

アカウント企業グループ売上高



離職率（単体）

2022年3月期 実績

全体の離職率

3.8%

（対2021年3月期 0.4P改善）

技能社員の離職率

1.8%

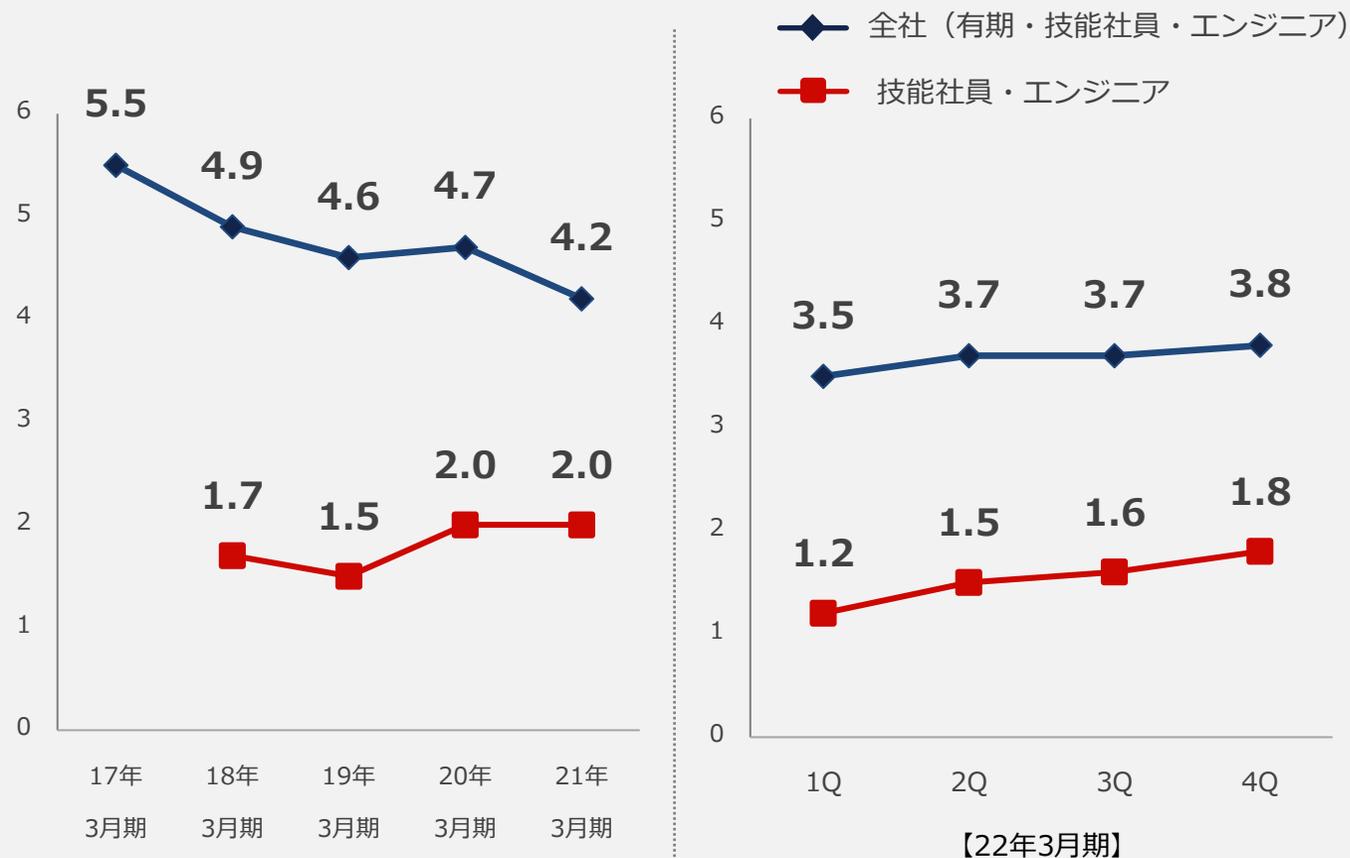
（対2021年3月期 0.2P改善）

ポイント

在籍数の増加もあり、離職率は若干上昇も、全社の離職率は引き続き4%未満を維持。技能社員・エンジニアの離職率も2%未満を維持。

離職率推移

（単位：％）



教育実績（単体）

ポイント①

主要コースの教育実績合計は、前期比で3,561名増加。

ポイント②

エンジニアへのキャリアチェンジ推進等もあり、エンジニア教育実績は前期比で350名増加、設備保全基礎教育実績は、前期比で31名増加。

● 2022年3月期 第4四半期 主要なコース別教育実績（延べ人数）

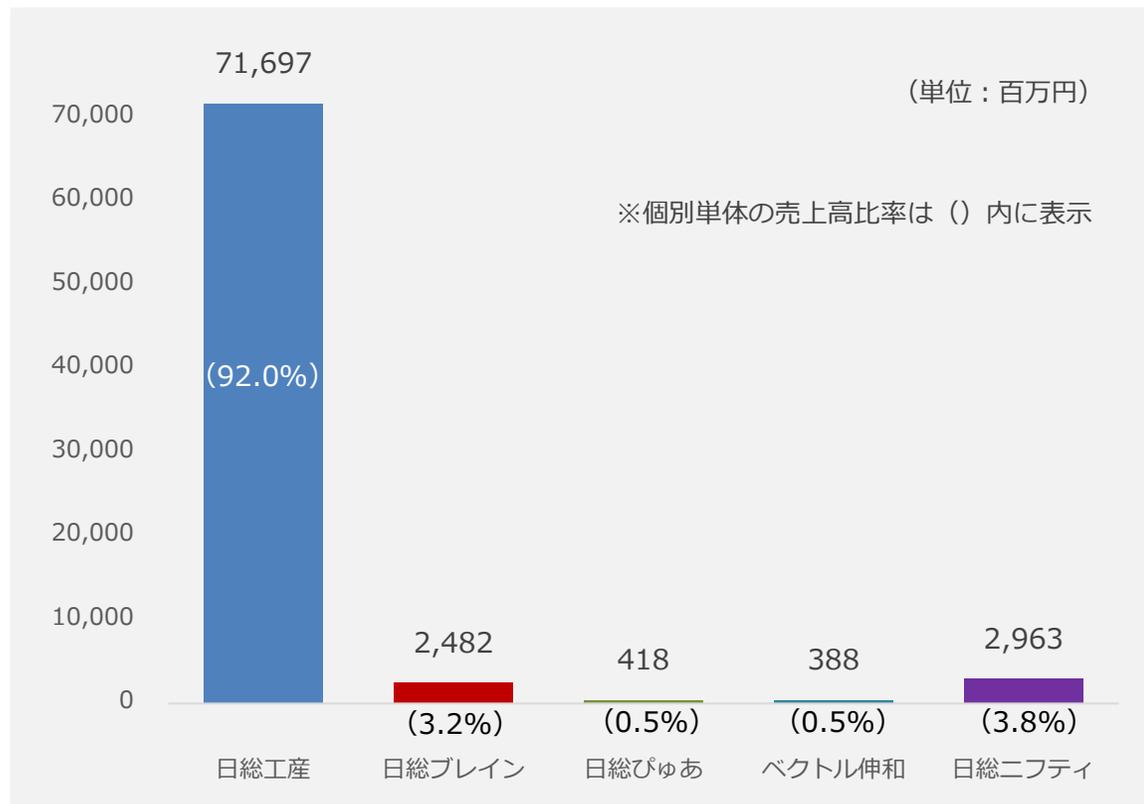
（単位：名）

研修名	4Q (1月～3月)	内容	22年3月期 累計	(参考) 21年3月期 累計
技能社員教育	457	技能社員スタンダード教育	1,594	970
設備保全基礎教育	100	設備保全基礎教育	290	259
エンジニア教育	142	製造設備保全・製造設備技術 機械設計・生産技術 SEAJ教育（半導体に特化した安全教育）	418	68
製造教育	1,277	ものづくり教育、 製造スタッフ配属前実習、 移動教育等	5,396	2,840
合 計	1,976		7,698	4,137

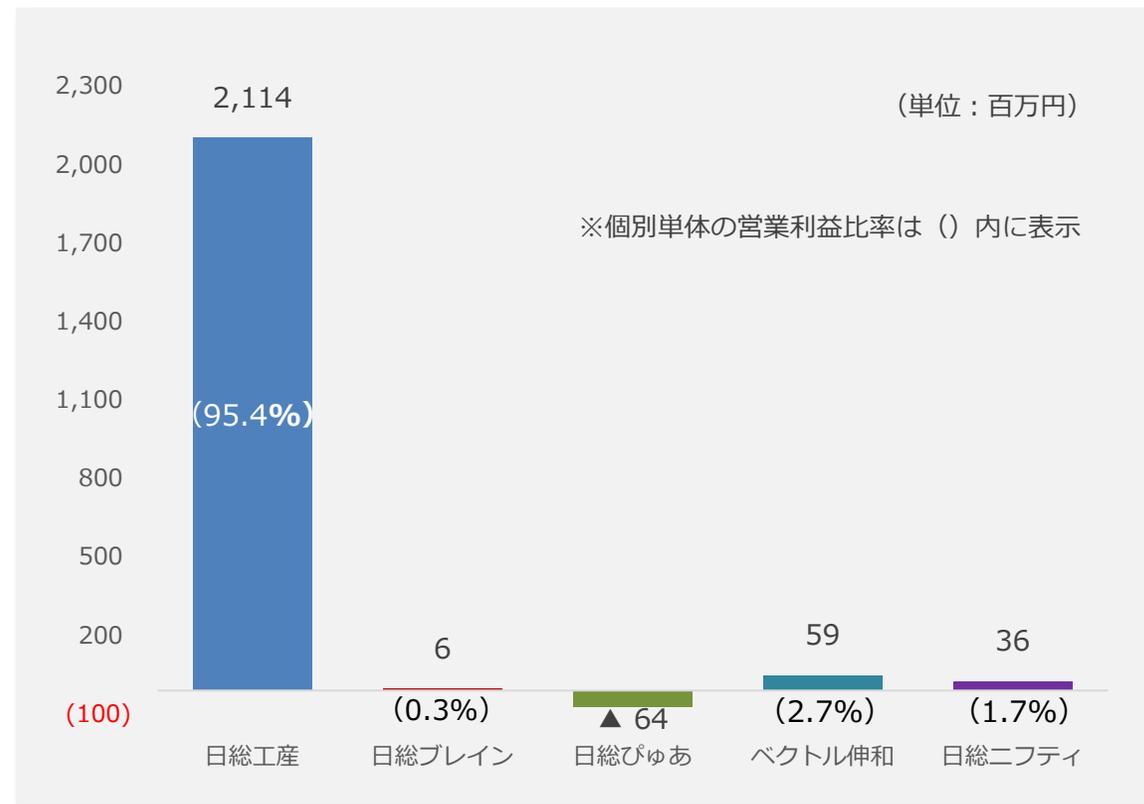
3 ターゲット別業績について (2022年3月期)

個別単体売上高・営業利益比率

2022年3月期 個別単体売上高



2022年3月期 個別単体営業利益



売上高・営業利益の90%以上は単体の業績で構成

既存領域について

既存売上高について

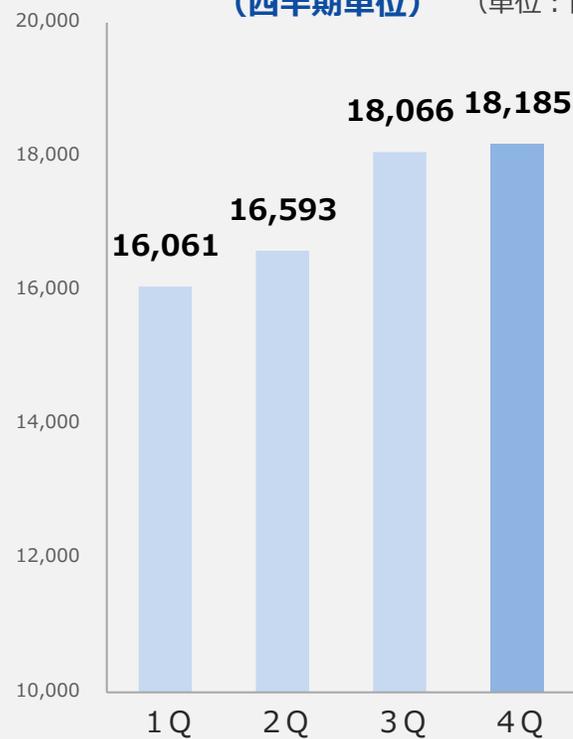
4Q単体の売上高は、在籍数の増加もあり、3Q比で0.7%増加。

既存在籍について

自動車、電子デバイスでの増員もあり在籍数は3Q比で112名増加。

既存売上高

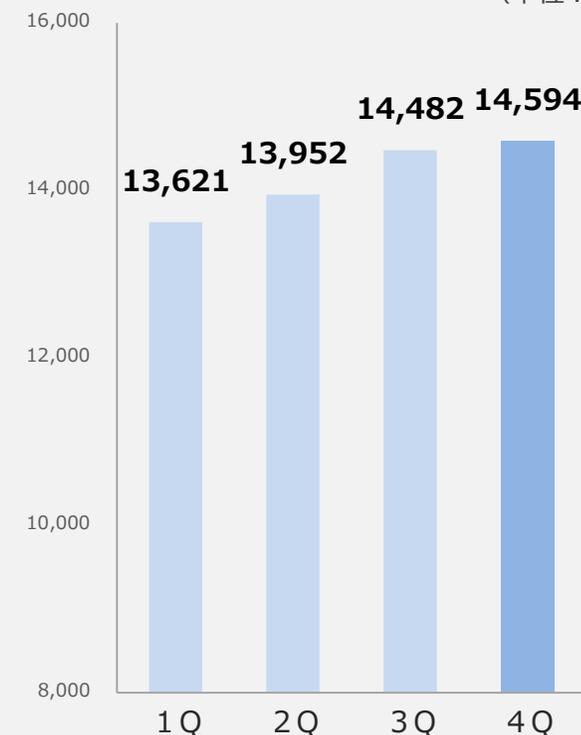
(四半期単位) (単位：百万円)



【22年3月期】

既存期末在籍人数

(単位：名)



【22年3月期】

エンジニア領域について（業績）

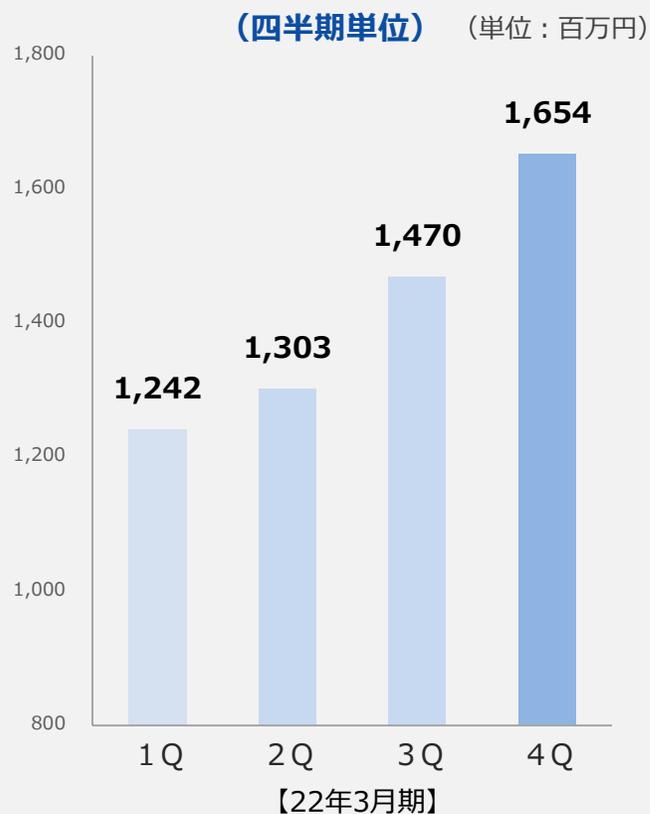
売上高について

- ・ 4Qの売上高は、在籍数の増加もあり3Q比で184百万円（12.5%）増加。
- ・ 今期目標に対し、達成率は138.3%となり、ターゲット別売上高目標では達成率が最も高い。

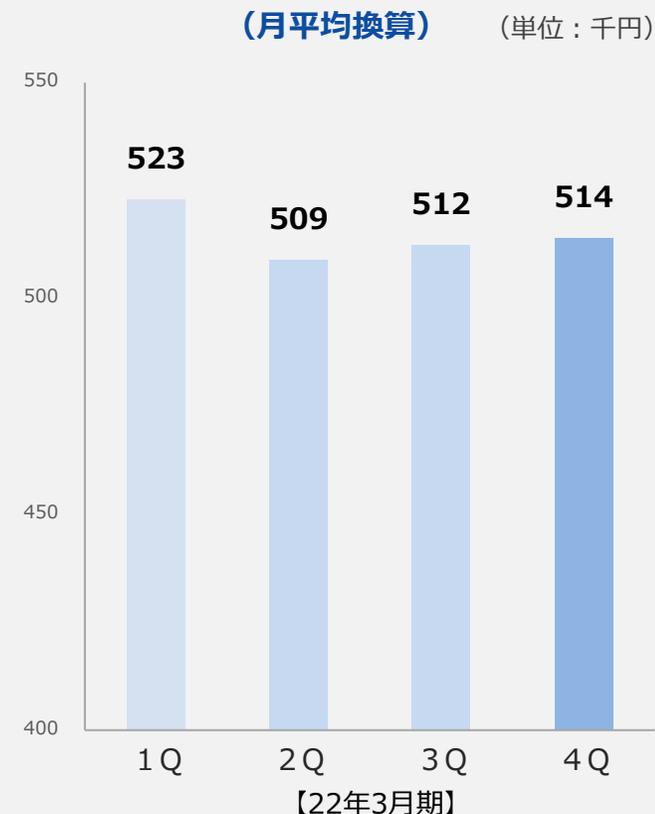
一人当たりの売上高について

エンジニアの一人当たりの売上高は、514千円/月、技能社員の473千円/月を上回る。

エンジニア売上高



エンジニア一人当たり売上高



エンジニア領域在籍人数

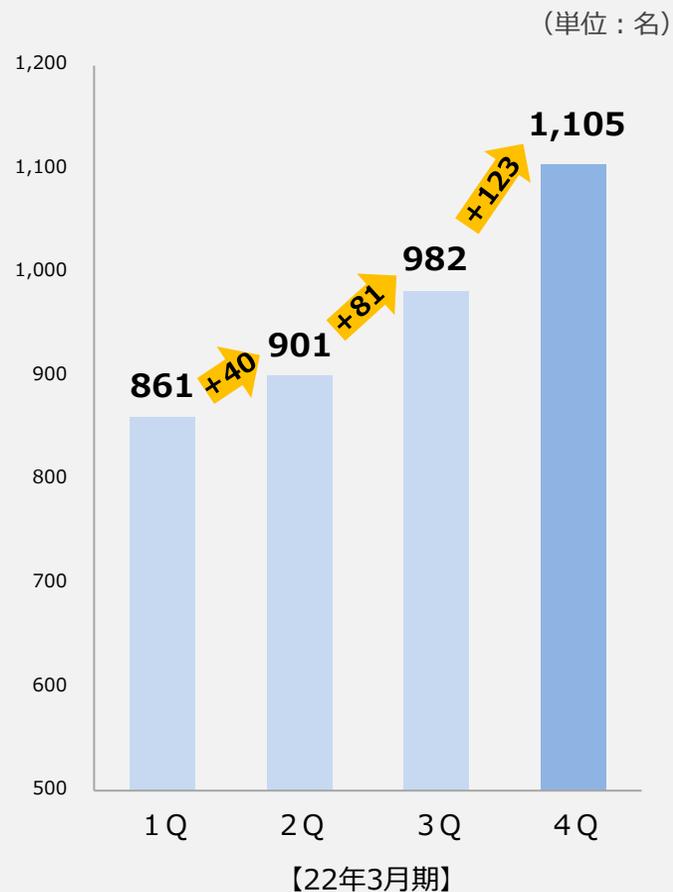
エンジニア期末在籍について

- エンジニアの在籍数は、3Q末比で123名増加。
- 四半期単位での在籍数の伸びは、1Q以降最大。

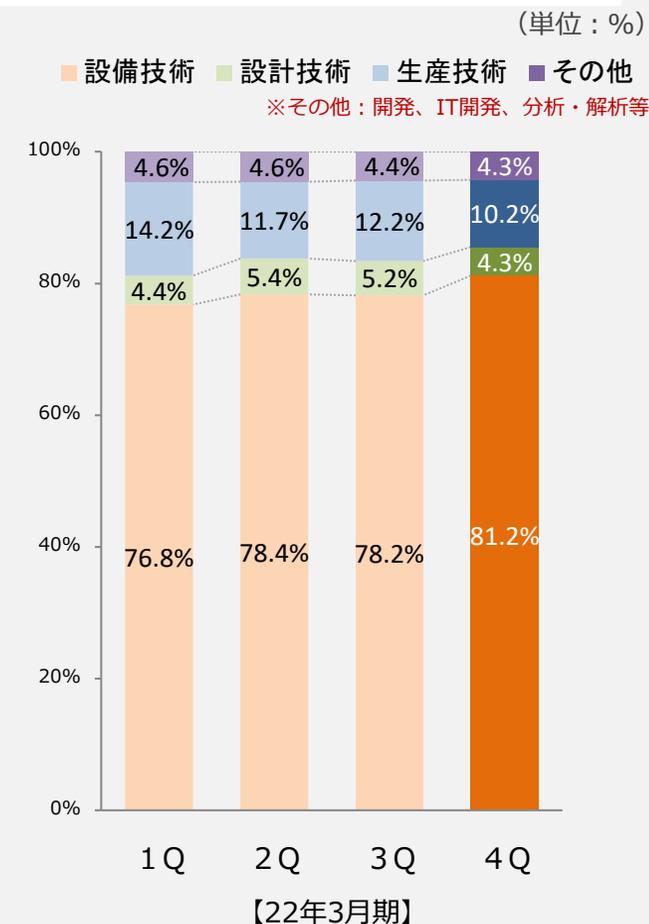
エンジニア業種分類について

業種別では、半導体装置を中心とした設備技術に注力、構成比が増加。

エンジニア期末在籍人数



業種別在籍 構成比



離職率（既存・エンジニア領域）

2022年3月期 実績

既存領域（単体）の離職率

3.9%

（対2022年3月期3Q ±0.0P）

エンジニア領域（単体）の離職率

1.9%

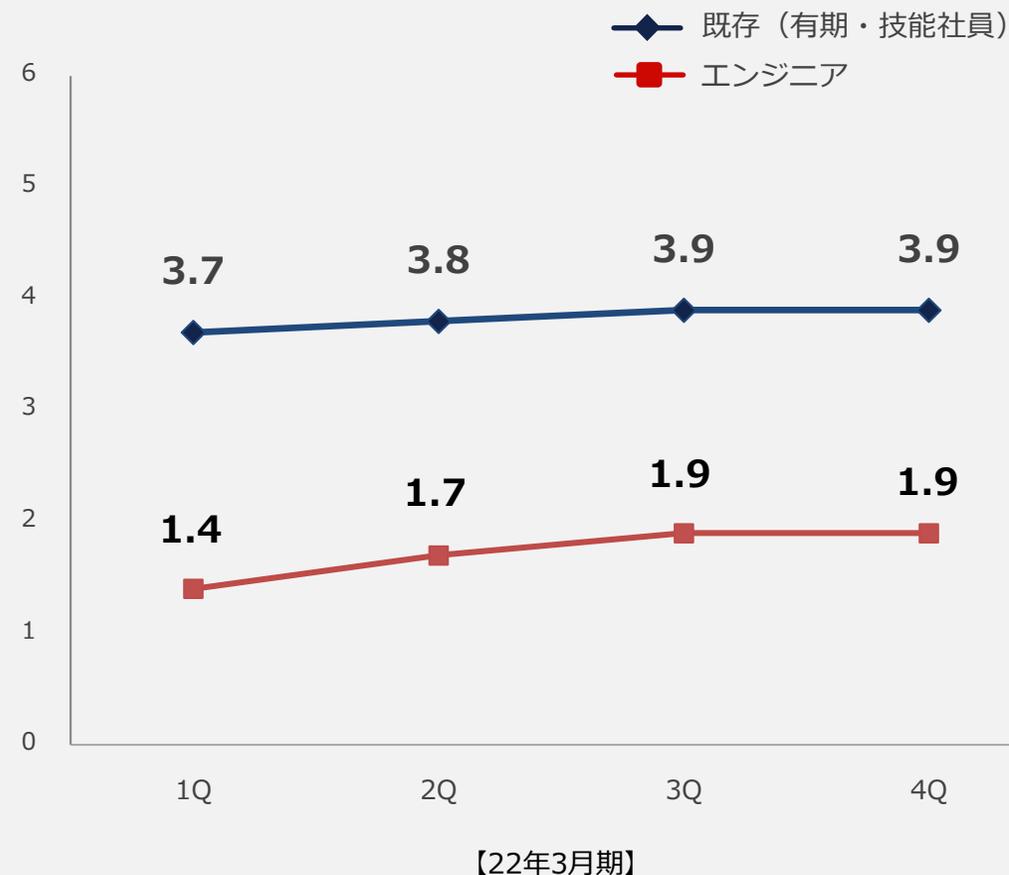
（対2022年3月期3Q ±0.0P）

ポイント

既存の離職率は4%未満を維持。エンジニアの離職率も2%未満を維持。

離職率推移

（単位：％）



その他の事業 事業収益

ポイント

- 営業利益は前期比で56.6%増加。
- 入居者数の微減から減収も、効率的な運営により増益。
- 介護施設全体の入居率は、引き続き90%以上を維持。

● その他の事業実績

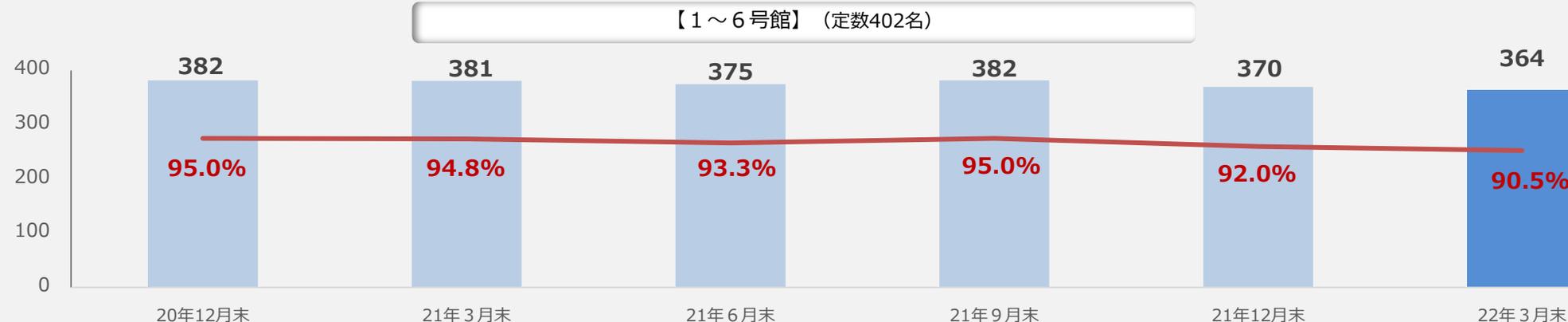
(単位：百万円)

	21年3月期		22年3月期		対前期比	
	実績	百分比	実績	百分比	増減額	増減率
売上高	2,972	100.0%	2,963	100.0%	▲ 9	△0.3%
経費	2,949	99.2%	2,926	98.8%	▲ 23	△0.8%
営業利益	23	0.8%	36	1.2%	13	56.6%

施設入居者数

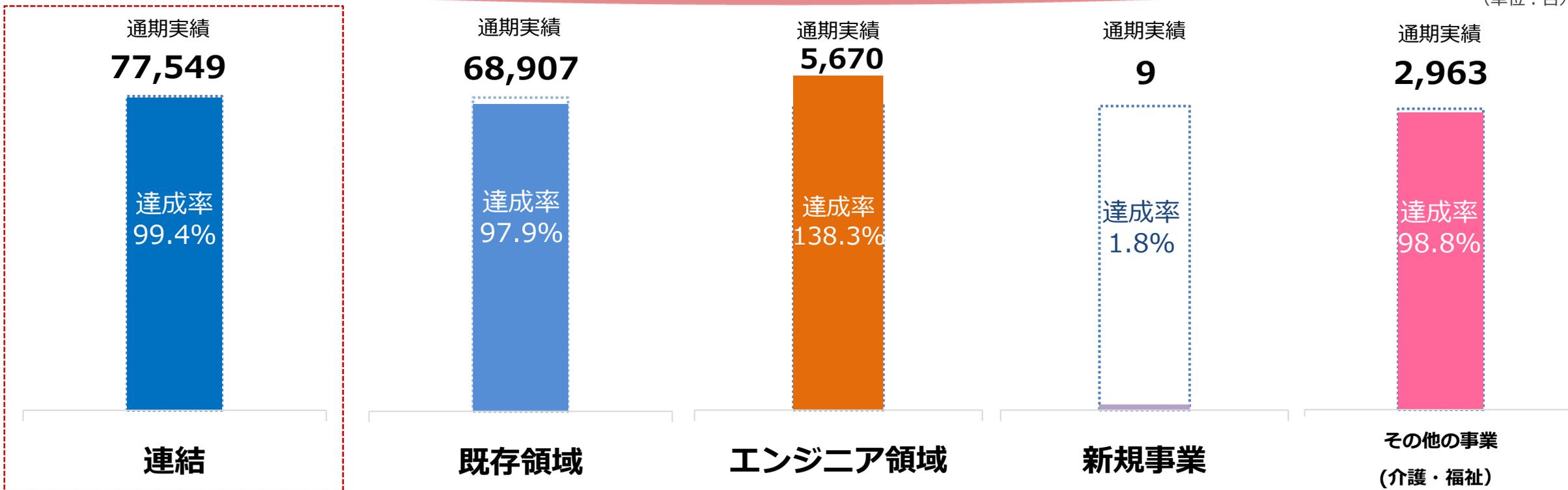
(単位：名)

■ 入居者数 — 入居率



まとめ（ターゲット別売上高目標 進捗）

(単位：百万円)



	22年3月期 連結			22年3月期 既存領域			22年3月期 エンジニア領域			22年3月期 新規事業			22年3月期 その他の事業		
	通期目標	実績	進捗率	通期目標	実績	進捗率	通期目標	実績	達成率	通期目標	実績	進捗率	通期目標	実績	進捗率
売上高	78,000	77,549	99.4%	70,400	68,907	97.9%	4,100	5,670	138.3%	500	9	1.8%	3,000	2,963	98.8%

4 今後の見通し（2023年3月期）

2023年3月期 通期連結業績予想



通期連結業績予想では、半導体不足、部品欠品の影響が一定程度続くことを想定しておりますが、増収増益を見込んでおります。

■ 2023年3月期通期連結業績予想数値（2022年4月1日～2023年3月31日）

（単位：百万円）

	22.3期実績		23.3期予想		対前期比	
	実績	百分比	予想	百分比	増減額	増減率
売上高	77,549	100.0%	88,600	100.0%	11,050	14.2%
営業利益	2,087	2.7%	2,700	3.0%	612	29.4%
経常利益	2,369	3.1%	2,700	3.0%	330	13.9%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,696	2.2%	1,800	2.0%	103	6.1%



5 株主還元方針

株主還元方針

基本方針

当社は、株主に対する利益還元と企業価値の向上を経営の重要課題と位置付けており、連結配当性向30%以上を目安に株主の皆さまへ安定した利益還元を継続することを基本方針としております。

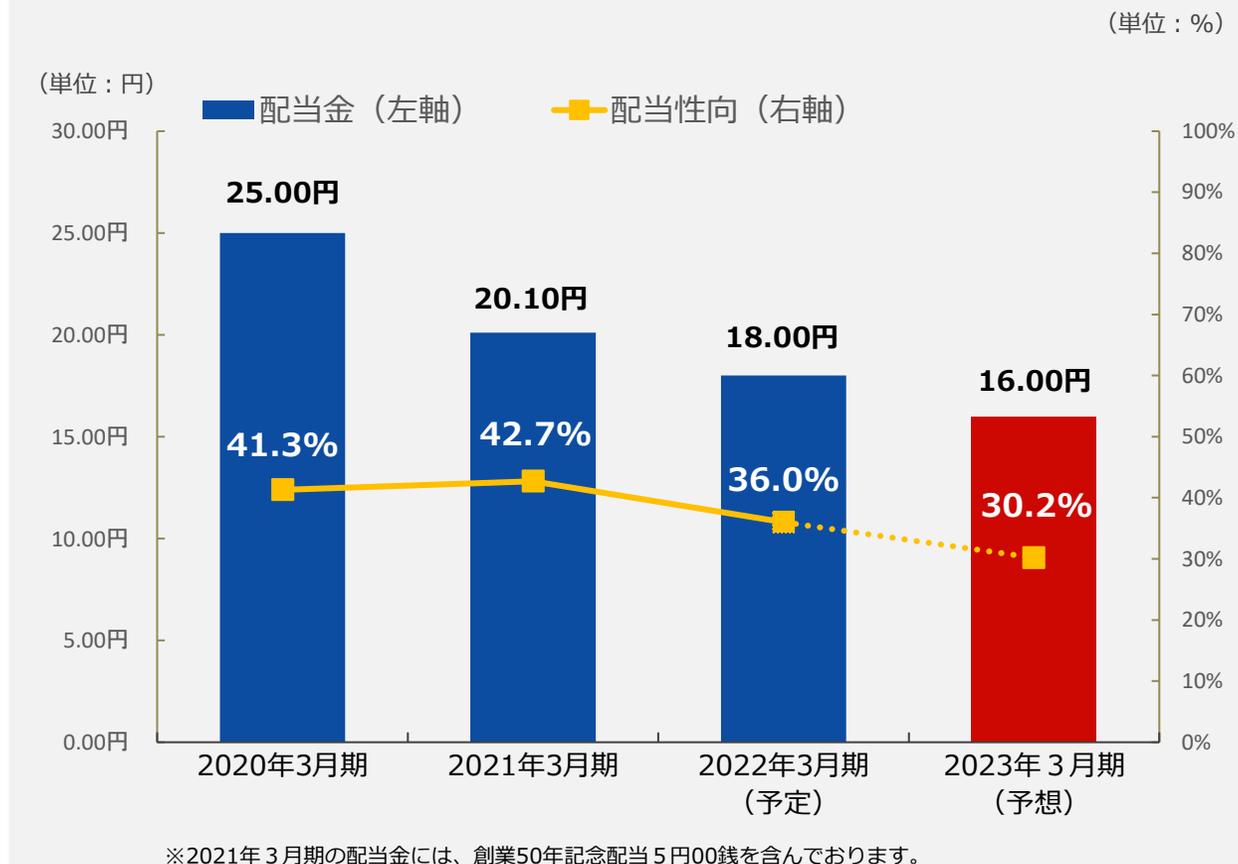
2022年3月期の配当（予定）

一株当たり配当金額は期初の予想どおり18.00円（連結配当性向36.0%）を予定しております。

2023年3月期の配当予想

一株当たり配当金額16.00円を予想しております。

配当金と配当性向



6 補足資料

連結貸借対照表

(単位：百万円,%)

	21年3月末		22年3月末		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	14,813	68.5	19,068	69.4	4,254
現金及び預金	5,873	27.2	8,779	32.0	2,905
受取手形及び売掛金	8,094	37.4	9,390	34.2	1,296
固定資産	6,817	31.5	8,394	30.6	1,577
有形固定資産	4,654	21.5	4,578	16.7	△76
無形固定資産	305	1.4	1,667	6.1	1,361
投資その他の資産	1,857	8.6	2,149	7.8	292
資産合計	21,631	100.0	27,462	100.0	5,831
流動負債	8,178	37.8	10,411	37.9	2,232
1年内返済予定の長期借入金	-	0.0	490	1.8	490
未払費用	4,541	21.0	5,381	19.6	839
賞与引当金	950	4.4	1,058	3.9	108
固定負債	689	3.2	3,492	12.7	2,802
長期借入金	-	0.0	2,509	9.1	2,509
負債合計	8,868	41.0	13,903	50.6	5,035
株主資本	12,744	58.9	13,540	49.3	796
純資産合計	12,763	59.0	13,559	49.4	796
負債純資産合計	21,631	100.0	27,462	100.0	5,831

Point

①稼働人数の増加

製造系人材サービスの稼働人数増加により、流動資産の「受取手形及び売掛金」及び流動負債の「未払費用」が増加しました。

②企業結合等

株式取得による新規子会社化に伴い、「無形固定資産」が増加しました。

③資金調達

金融機関からの新規借入により、流動負債の「1年内返済予定の長期借入金」及び固定負債の「長期借入金」が増加しました。

④全体

上記の結果、前期末比で資産合計が27.0%増加、負債合計が56.8%増加、純資産合計が6.2%増加となり、自己資本比率は9.6%減の49.4%となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	21年3月期	22年3月期	増減額
	金額	金額	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,672	2,273	600
投資活動によるキャッシュ・フロー	△496	△1,538	△1,042
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,668	2,164	3,832
現金及び現金同等物の増減額	△491	2,899	3,391
現金及び現金同等物の期首残高	6,365	5,873	△491
現金及び現金同等物の期末残高	5,873	8,773	2,899

Point

- ① 営業活動によるキャッシュ・フロー
売上債権の増加等による支出を、税金等調整前当期純利益等による収入が吸収したことにより、2,273百万円の収入となりました。
- ② 投資活動によるキャッシュ・フロー
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得等の支出により、1,538百万円の支出となりました。
- ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー
配当金の支払等の支出を、長期借入れによる収入で吸収したことにより、2,164百万円の収入となりました。



人を育て 人を活かす

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

〈IRに関するお問い合わせ先〉

日総工産株式会社 広報・IR部

電話 045-777-7630

E-mail ir@nisso-ir.com

URL <https://www.nisso.co.jp/>